

第三十八回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

平成二十八年 広島県土木建築局

目次

優秀賞

水の循環の仕組み

比治山女子中学校

一年

大久保

葵彩

私の身近な水

比治山女子中学校

一年

大村

風歌

「大切な資源」

銀河学院中学校

一年

井上

智貴

入選

僕にできること

広島城北中学校

一年

中野

壮一朗

水との関わり

広島城北中学校

一年

不二川

公慈

水と共に生きるために

比治山女子中学校

一年

今村

美結

人間にとって一番大切な物

比治山女子中学校

一年

栗原

菜々穂

水の大切さ

比治山女子中学校

一年

長尾

恵

水の大切さ

比治山女子中学校

一年

棗田

帆乃夏

水と生き物の環境

比治山女子中学校

一年

檜垣

彩佳

水の循環の仕組み

比治山女子中学校 一年 大久保 葵彩

私は、ゴールデンウィークに山口の祖母の家へ帰った時にシャワーのヘッドに大きさがちがう石が入っていました。私は、その石が気になり、母に聞いてみたところ、汚れた水を大きさがちがう石が汚れを取ってきれいになった水が出てくると教えてもらいました。

それを聞いた私は、石で水の汚れが取れるの?と思いました。さらに母は、雨のことについて教えてくれました。海水が蒸発して、雲になり、雲から雨が降って、その雨水が山の土に吸収される過されてきれいな地下水になるのと同じ仕組みだよと、教えてもらいました。その話を聞いた私は、小学校の時に、理科の授業で習ったのと同じだと思い、それをふまえて、もっと深く知りたいと思いついてみることにしました。

教科書にのっている写真は、青くて、とてもきれいな地球です。海洋と陸地の割合は、およそ7対3で、海洋の方がずっと広いため、水の惑星とよばれています。海洋の97・5%が海水です。海水は、私たちが飲んでいる水とちがって、まだ飲めない状態の水だと分かりました。そこで地球にある水は、どのような旅をしているのだろうか?まず海水や川、陸地など、さらに植物から水が蒸発し、上空へ上がっていきます。やがて、水蒸気は冷やされ空気中の「ミスト」をつくき、やがて雲になっていきます。それが、ちよっとずつ大きくなり、その重さにたえられなくなり、雨になって、落ちてきます。地上に落ちた雨は、砂や岩に移動し、さらに地下にある大きな岩のあいだを通って、もっと地下深くへ移動する水もあるのです。地表に近いところに水があれば、井戸や湧き水になって、再び地上へ姿を現します。中には川や湖に入っていく水もありますが、最終的には、海に流れて、帰っていきます。このことを水の循環だと分かりました。

地下水は、無限にあるものではなく、長い時間をかけて地球がろ過を

したものだとは知りませんでした。私は、昔から蛇口をひねれば好きな時に好きなだけ水を使えると思っていました。実際に薬を飲む時や、うがいをする時に必要な分だけ水を出せばいいのに、必要以上の水を出して水を捨ててしまったことを深く反省しています。では、私に何ができるのか?それは、水を無駄使いをしないことです。そのためには、節水することです。私は、家でしている節水を聞いてみました。私の家では、お風呂の残り水を使って洗濯をしたり、シャワーの水を出しっぱなしにしないことに気をつけていると母は話していました。以前、私は祖母が米ときをした米汁を植物の水やりに使っているのを見たことがあります。私は、それも節水の一つだと思っています。

普段の生活でもっともよく使っている物は何か、調べました。まず最も多いのはトイレで約28%水を使っています。2番目はお風呂で約24%水を使っています。3番目に多いのは台所で使う水で約23%水を使っています。4番目は洗面台で約17%水を使っています。

家庭でできる節水方法はトイレでは、大小のレバーを使い分けること。お風呂では、お湯を入れすぎない、シャワーを短く利用する、残り湯を捨てずに再利用すること。台所では、お米のとき汁を植物の水やりを使う、食器を洗うとき「ため洗い」をすること。洗面台では、歯磨きをする時に水を流しっぱなしにしないことなどがあります。

かぎりのある水を世界中の人々で、節水をし、水の無駄使いをなくしていくといいと思います。みなさんはこのことをどう思いましたか?私は、節水をして少しでも住みやすい地球にしたいと思いました。

私の身近な水

比治山女子中学校 一年 大村 風歌

今回、水というテーマで作文を書くこと聞き私は少し困りました。なぜなら、テーマがあまりにも漠然としていたからなのと、「水」が身近な物すぎて改めて考えたことがなかったからです。

飲料水や水力発電など、「水」について色々と考えましたが、私が「水」と聞いて一番にイメージするものは、やはり川でした。広島市に住む私にとって一番身近な「水」は川だからです。

私は毎年春になると平和公園にお花見に行きます。平和公園の周りを流れる元安川添いのベンチに家族で座り川添いの桜を眺めます。そうしていると、遊覧船に乗った観光客が、私達に手をふってくれたり、毎年楽しいひとときを過ごします。川の流れば人々を楽しませ、水の美しさは人々をうっとりといやしてくる存在であると小さい頃から思っています。

この春から私は中学生になり、小学校の頃とはまったく違う道を通って通学しています。通学路も何倍にも延びました。通学路には猿猴川がある。「何番目の橋を渡る」など川を目印に通っています。

朝の登校時には、潮が満ちていてほんやりしているこのみこまれそうなほど水の量が多いです。だけど、下校時には水位が下がり、朝には見えていなかった川の上を鳥が歩いてエサを探しているのを見ます。場所や時間帯だけでなく、川の色で間もなく雨が降りそうなどと気づいたりするので、猿猴川は色々生活の目印となってくれています。

猿猴川にかかる橋で、目印になっている橋は猿猴橋、荒神橋、大正橋の三つです。荒神橋は昭和初期に架けられており、古く歴史のある被爆橋梁です。シトロなデザインで目印になります。猿猴橋はいつか古く、広島市内で最古の橋です。安土桃山時代に架けられ大正時代には珍しく照明灯もつき、金属製の像やモチーフであしらわれ、大正ロマンあふれ

るデザインだったそうです。しかし、戦時中の金属回収令で橋の金属部分が回収され、その後、石造りの本体だけが残されました。今年の三月、この猿猴橋を百年前の大正当時の姿に復元するという、広島市のプロシエクトのもとに復元工事と、橋の開通セレモニーが行われました。セレモニーは私も見学に行きました。夕方、カウントダウンと共に照明灯に火がともされたり、大正当時の衣裳を着た人たちが橋の上を歩いたり、とても幻想的でタイムスリップをしたかのようなセレモニーでした。中でも一番印象に残ったのは、橋の上で書道家が橋の上に置かれた大きな紙に大きな筆で字を書いたのですが、その墨汁は猿猴川の水を使ってすられたものだということでした。地元の水を使った書の作品を見て、とても感動しました。

今も毎日、猿猴橋を通って通学しています。現代の、町並みの中で、その橋の付近だけは大正時代にタイムスリップしたような気持ちになり、不思議な感覚です。橋の姿は百年前にもどったけれど、川の水も、昔のままきれいであってくれればいいと思います。水のきれいさも、川の流れ・水量も、川にエサを求めてやって来る動物の姿も、百年前と同じままで、またこれからの百年後もずっとそうであってほしいと思っています。先人が残してくれた美しい環境に感謝しながら、これから先も同じ美しい環境を残したいと思いつつ、毎日自転車をこいで橋をわたっています。

優 秀 賞

「大切な資源」

銀河学院中学校 一年 井上 智貴

ぼくの祖父は、お米作りをしていて、四月になるといろいろな準備に忙しくなります。同じ時期に、町内の一斉清掃があり、川や溝の草刈りやゴミ拾いもするそうです。投げ捨てられた物は、お菓子の袋やジュースの缶、ペットボトルが多く、中には自転車や扇風機が川の中から出て来た事もあり、

「ゴミは増える一方だけど、生き物は種類も数もずいぶん減ったんだ。」と、話してくれた祖父は、少し寂しそうに見えました。

そして、この時期に川の清掃をする理由を二つ教えてくれました。一つ目は、お米作りにきれいな水が欠かせないという事です。流れを妨げられた水は、よどみ・水温が上がり生き物が住めないような死んだ水になってしまいます。

「山から湧き出るきれいな水で育てるお米は、本当においしんだ。」と、祖父は、自信たっぷりになさきながら言いました。二つ目は、梅雨に備えるという事です。水量が増した時に、草やゴミが流れを止めてしまうのを防ぐ事も大切だと教わりました。

ぼくは、お米作りの手伝いをしても、水について深く考えた事がありませんでした。流れている水を田んぼの中に入れれば、苗は育つと思っていたのです。しかし、それは大きな間違いでした。みんなで協力し川の手入れをする事で田んぼに水が入っていたのです。

祖父に、

「これでやっと苗が植えられるんだね。」

と、ぼくが言うと

「天候によって水不足になる事もあるから、ため池の水も大切な資源なんだ。」

と、祖父が言った言葉で、小学校六年生の時にグループで、ため池につ

いて調べた事を思い出しました。ぼくの住んでいる周りだけでも10ヶ所のため池がありました。その中でも古いため池は、昔の人が手作業で作った物もありました。主な役目として田んぼの水以外にも、火事の時の消火用・水不足の時の生活水など、今と変わりなく利用していた事が分かりましたが、暑い時に泳いだり、洗濯したり、ウナギなどの魚を取って食べたなど、今以上に昔の人は、ため池を利用していた事が分かりました。これら知恵のつまったため池は、今のぼく達にも多くの恵みをもたらしてくれています。

祖父の話の中で

「水は大切な資源だ。」

という言葉がすごく心に残ったぼくは、もう一度今の生活を思い返してみました。もし水がなかったら、生きていけるのだろうかとすごく不安な気持ちになりました。人にとって水は、命そのものだと強く思えるようになりました。だから、水の出しっぱなしをしないなど、出来る事から節水を心がけたいと思います。

僕にできること

広島城北中学校 一年 中野 壮一郎

今、僕達が生活する上で「水」というものはいつでもどこでも当たりに前に使うことができます。でもそれは決して無限にあるものではありません。せん。

過去の歴史を調べてみると、日本では水不足を解消するため、約三百年前に江戸時代に五川上水が作られました。世界的にみても質の高い上水道と言われているそうです。そういった設備のお蔭で僕達は、安全な「水」を使うことができます。

ですが、未だ途上国では水道もなく、不潔な水や汚染された環境で生活し、病気になるっているのが現状です。中には、安全な飲み水を手に入るために、数十キロ離れた場所まで歩き、水をくんで帰るため学校に行けない子供達がたくさんいます。このことに比べれば、日本は「水」にとっても恵まれている事は事実です。当分の前に「水」が使える一方で、ある問題が発生しています。それは日本人が一日一人当たり使う水の使用量が先進国の中で高い位置に占めているという事です。これは五十年前に比べて約二・五倍に増えています。また、二〇二五年には「水ストレス」と呼ばれる水不足状態になる国が増えると予測されています。日本も関係ない話ではありません。

僕はこの事柄についてこれからどうすれば良いのか考えました。

今僕が農業や工業の水の使用量を減らすことは難しいのでまず家庭内の節水をしていこうと思います。

例えば、歯を磨く時、水を出しっぱなしにするのではなく、コップに入れて使う方が約六リットルも節水ができます。そして、シャワーでも水を流したままにするのではなく、小まめに短く水を切りながら済ませると約十二リットルというかなりの量の節水ができます。しかも、歯磨き、洗顔、食器洗いなどを合わせて節水すると水道の使用料が六十円も

安くなるそうです。気付かないうちに僕も、毎日無駄な水の使い方をしてきたと反省しました。このような小さいことかもしれないけれど、日本中の一人一人が家庭内の節水を行い、それが世界中に広がれば二〇二五年までに水ストレス状態になるのを防げるのではないかと思います。

世界中の人が「水」の大切さを知れば「水」の使い方を考える人が増え、無駄遣いをしなくなると思います。また、一部の先進国だけでなく途上国の人が生活する地域でも「水」の整備を進めることも大切だと感じました。

「水」に苦しみ、「水」に困る人が一人もいなくなり、世界中の人に恵みをもたらすようになって欲しいと思います。

水との関わり

広島城北中学校 一年 不二川 公慈

水と聞いて、ぼくの頭にすぐ思い浮かぶのは、ぼくの家のすぐ裏手を流れる馬洗川です。

吉舎町では、町で、川がきという一日講座のような企画が、以前は毎年夏にありました。小学生までを対象に、川の生き物を捕えたり観察したり、石を拾ってストーンペインティングをしたり、カヌーに乗ったりしました。つかみ捕りしたヤマメを塩焼きにして食べたりもしました。そしてその合間に、石の宝探しやスイカ割りなどもあって、ぼくもきょうだいですっと楽しく参加していました。又、ホタル祭りといったイベントもありました。小学校でも、四年生になると、必ずホタルについての学習をしました。吉舎町は、「ホタルの里」と呼ばれているからです。

でも、川がきも、ぼくが三年生ぐらいまでで続けることができなくなり、川魚やホタルも、一時期とても数が減ってしまって、そういった企画を組むことが難しくなっていました。頃がありました。川がきは、参加するぼく達子どもからすると、もりだくさんで、川遊びを十二分に楽しめる行事でしたが、その分それを運営するのはとても大変で、負担が大きく、続けていくのが厳しくなっていました。一方で、川魚がずいぶん少なくなり、つかみ捕りもそのままではなかなかできなくなっていました。それと一緒に、ホタルが減っていたのは、ホタルの幼虫が工サにするカワニナが激減してしまったからです。

カワニナ、というの、川などにいる巻貝の一種です。たいてい2〜3cm位で、タニシと同じくらいだけど、タニシが黒っぽくて丸っこいのに対して、カワニナは、オリーブ色だったり茶色っぽかったりして、細くたて長な形をしています。カワニナが減少した理由は、やはり川の水が汚れて、カワニナが住みにくい環境になってしまったからです。川

魚も同じように、川の水の汚れや、土砂などで産卵できる場所が埋まってなくなってしまうたりして、減ってしまったのです。

そこで、ロータリークラブの人達が、もう一度、ホタルの住めるきれいな川にもどそうと、クリーンアップ作戦を展開しました。そのおかげで、馬洗川はだんだんきれいになってきました。カワニナの数も増え、ホタルの数もぐっと増えてきました。

馬洗川は、生活用水や農業用水としてももちろん重要ですが、ぼく達住んでいる側にとっても、勉強やいこいの場所であり、コミュニケーションの場所としても大きな存在です。また、ホタル祭りやうかいなどのイベントがあることによって、町外から人々が訪れる観光資源の役割もあります。そんな馬洗川を、たくさん生き物のいるきれいな川にしていることとする活動を通して、川はますます、親しみのある大切な存在になっているのだと思います。

水と共に生きるために

比治山女子中学校 一年 今村 美結

節水の呼びかけはたくさん聞けけれど、水がなくてとても困ったという経験はありません。だから、水道が何日も止まるようなことを考えたことはありませんでした。それに森や川、海など自然が豊かな日本で、水がなくて困るということはないだろうと思っていました。

しかし、節水はオイルショックの半年前の一九七三年一月に東京都水道局が「水道需要抑制への提言」を発表し、都民への節水キャンペーンに乗り出したということを知りました。水使用量が多いほど収入は増すのに、売り物の水をなるべく買うなど、宣伝費をかけて訴えたそうです。水需要の伸びに対し、水資源開発が思うように進捗せず、将来の恒常的な水不足が心配されていたためで、オイルショックは都民の節水意識の追い風になったということを知りました。それ以前にも節水の呼びかけはあったけれど、一般の理解を得るのは難しく「日本は水の豊かな国であり、水だけはふんだんに使わせて欲しい」という国民の率直な生活感覚があったから困難だったということを知りました。そこから、たくさんの人々の理解を得ることは大切なんだなと思いました。たくさん理解を得るためには、しっかりと環境問題について国民に訴える必要があると思います。

また、節水をするだけではなくて一度使った下水を再生する「雑用水利用」が大切だと思います。事務所ビルで使う水道用水の約半分は水洗便所で利用されているそうです。水洗便所で一回流すのに使われているのは約十から十五リットルで、成人一日あたり約九十リットルになると聞くと、とても水を無駄使っているように思えてしまいます。トイレやエアコンに使われている水は料理などに使うわけではないので、飲めるほどのきれいな水の必要はないから、一度使った下水を再生しても問題はなと思います。でもそのためには他の配管を用意しなければいけ

ません。それを全ての建物に用意しようと思ったら、たくさん時間がかるので今からすぐできるような簡単な話ではありません。まず一人一人がもっと節水を心がけることが一番早くでき実現可能だと思います。それに、水行政は多くの官庁に関係しているので行政所管間の調整が重要で面倒になるから、調整がうまくいかずお蔵入りになった法案は数多くあるそうです。確かに実現しにくく難しい話だと思います。だからと言って、これからはもっと節水を心がけて下さいと呼びかけるだけでは未来もずっときれいな水が使える世の中にはできないと思います。たとえ困難であってもよりよい世の中にするためには、国民全体で水の利用方法話し合って決めていく必要があるのではないのでしょうか。そうしなければ、もう何世代か後にはたいへんな水問題が抱えられていることになると思います。

私はずっと安心して水と共に生きていける社会を作るためには、一人あたりや工場一棟あたりの使っている水の基準を定めたり、水の大切さや今の水が置かれている立場など環境について訴えかけていくこと、話し合ってたくさんの意見を集めていくことが大切だと思います。節水を心がけるだけではなく、今の自分に何ができるのか。数世代後のことを考えて行動をとるようにしていきたいと思います。

人間にとって一番大切な物

比治山女子中学校 一年 栗原 菜々穂

私は、人間にとって一番大切な物、それは「水」だと思います。水は、命や農業、物流などに大切であり、人間の営みのもとになっています。深刻なのは、「飲み水問題」です。

そう考えたのには、二つの理由があるからです。

一つ目は、東日本大震災、そして今年の四月におこった熊本地震のことです。

この二つの震災では、水が止まり、水不足になりました。すると、日本の人達が支援し協力し合ったことを知ったからです。

二つ目は、発展途上国は水がないため、日本人のボランティアが行き、井戸ほりに協力し、水が出たというニュースを見たことがあるからです。現在、熊本地震発生から約二十日経過しました。

水道水が復旧したものの、地震によってごってしまった、水が飲めない状況が続いているようです。なので、災害に対してすぐ、飲み水が供給出来るよう対策が必要だと思いました。「安全な飲み水の確保」は人の命に関わります。

アジア、アフリカをはじめとする途上国地域はもちろん、先進国でも世界の人々の命、生活、そして経済を考えると「水」が大切だと思います。

「水」は人々の命を直接的にも間接的にも私達を支えている重要な「資源」です。

地球環境問題でえいきょうを受けるのも、「水」です。気候の変動でここ数年、日本も水の被害に関するニュースが後を絶ちません。

だから、水資源の保全や治水のために「適切な水資源」の管理、気候の変動への対応が重要な課題になります。

日本は世界的に降水量も多く水が豊かですが、これまでもたびたび水道水の断水による生活へのえいきょう、工業用水の不足などがあります。

夢は、世界の人々が安全な水を飲めるようになることと、水の確保が出来るようになることです。

出来ることから、一人ひとりが水の使い方を見直す必要があると思います。

まず、水を汚染し、ムダ使いをしないことをやっていくことです。てっていいした節水、(風呂や洗たく、水洗トイレ、洗面、すいじ、庭の水まき) など自分の身近な所から始めるべきだと思います。

一人ひとりががんばることで大きな力になると思います。

また、水資源の保全や治水のために、「適切な水資源」の管理、気候の変動への私達一人ひとりの対応が重要だと思います。

例えば、災害に対しては、水などの備えをしておき、河川や湖などの水質を改善していくことが必要だと思います。

最後に日本の「水の技術」がもっともっと向上し、世界に役立ち、皆の幸せにつながるとうれしいです。

水の大切さ

比治山女子中学校 一年 長尾 恵

私は、部活のあとに、のどがかわいた、飲み物欲しい、と思ったら普通なら、すぐにお茶や水等を飲む事ができます。そして、汚れた手を洗ったり、汗をかいて一日のつかれをいやすために、お風呂に入ったりするために、たくさんの水を使います。

先月、四月十四日、十六日に熊本で震度6の地震が起きました。この地震で家がこわれ、被災した人達は、住む場所もなく、食べ物も、飲み物もなく、車やテントで暮らす人が増え、エコノミークラス症候群になる人が多くいて、亡くなった人もいます。

水が出ないため、手を洗ったりできず食べ物や水が少ししか届かない地域もあり十分な生活ができていない人達がまだ、たくさんいます。

私の父は、四月の二十四日から二十七日まで、給湯器の修理に熊本へ行きました。行ってからも何度か地震があつて、屋上で作業中に揺れた時は、とても怖い思いをしたそうです。父が現地の人に話を聞くと、

「水が一番大事。」

と言っていたそうです。他にも、

「あたたかいお風呂につかって、ぐっすり寝れることが幸せ。」

など、水が出ないことによって多くの人が、大変な思いをしています。

また兄は、街中で熊本地震などのために、募金活動をしました。たくさんの方が募金活動をしてくださったそうです。

今、私ができる事は、シャワーの水を少しずつ使うこと、お皿を洗う時に水を流しっぱなしにしないこと、そして水を大切に使うという気持ちを持って、過ごすことです。

水があるおかげで、人は生きていけます。田んぼに水をひいて、お米を作ることができるし、野菜に水をやり、育てることも出来ます。

水を大切に使うことで、私たちの生活が豊かになると思います。

今回の熊本地震で私が思った事は、水が出る事があたりまえだったのに、地震が起こった事で、お風呂に入れなくなったり飲む水もなくて、多くの人が大変な思いをして、水がたくさんの人を救い、どれだけ活やくし、そして必要とされているものか、改めて知ることができました。人間や動物、植物などが生きていくために一番必要なものは、水だと思います。これからも、水を大切に使う、という気持ちを忘れずに、一日を一所懸命がんばろうと思います。

水の大切さ

比治山女子中学校 一年 棗田 帆乃夏

私は、水は生きていく上で必要不可欠なものであると思います。水は酸素と水素が二つ結びついて構成されている物質だということの水について調べていた時に知りました。私たちは普段水を飲み、料理、洗たく、トイレ、シャワーなどのたくさんの方々の生活の中で使っています。そのため、水を安全に安心して使えるようにするため、水に係わる仕事をしている人がたくさんいるということをおぼえてはいけなないと思います。日本では今、一人一日当たり約三〇〇リットルもの水を生活の中で使っているとき、びっくりました。

私は、水を使うといずれ無くなってしまうものかと思っていました。でも、水は使ってしまうと無くなってしまふものではなく、太陽のエネルギーを受けて海等から蒸発させ、雲から雪になって地表を潤し、地下水、河川などを経て再び海に戻る自然の大循環を繰り返していることを知りました。

また、世界に水について目を向けてみました。世界保健機関(WHO)によると、世界では約十二億人の人たちが安全な飲料水や水を確保できていません。汚れた水が原因と考えられる病気で八秒に一人、子どもたちが命を落としています。そして、五人にひとりが十五歳になる前に亡くなっているそうです。普段当たり前のように使っている水が、とてもありがたく感じます。

水も限りある資源の一つであることをみなさん知っていましたか。私たちは限りある水をこれから先、大切に使うていかなくてはなりません。水を有効利用するために、よくれた水処理して再利用したり、海水を淡水に変えたりする技術が開発され、世界各国で使われているそうです。いろんな形で、世界各国が協力して大切な水を守っていかたいなと思っています。

水は人間だけでなく、動物・植物など地球上で生活している生き物たちにとってとてもかかせないものです。人間は、ほとんどが水でできていると言ってもよいくらいだそうです。例えば、森でたとえてみます。森にとって水は生きていくために不可欠な資源であると同時に、水にとっても森は雨を水蒸気に変換してくれる水循環システムの一端を担っている重要な存在です。水の循環がうまくいかなくなると、生態系のバランスがくずれたり、集中豪雨や洪水、水不足などの自然災害の被害が大きくなったりするそうです。そのため水をつまぐ循環させていくには、森や川、海など、自然環境全体を守っていくことが大切だと思います。

これらのことを学び、私は改めて水の大切さ、ありがたさを実感しました。普段当たり前のように使っていた水も、これからは大切にしながら、じゃ口をひねれば、当たり前のように使えることに感謝しながら、向きあっていきたいと思っています。

水と生き物の環境

比治山女子中学校 一年 檜垣 彩佳

私が水について関心を持った時は、小学校六年生の三月頃の理科の授業でした。その理科の授業で用いられたテーマは、

「生き物と食べ物、空気、水」

でした。そこで、地球温暖化や呼吸、食物連鎖と、最後に水について自分達で調べていきました。

私は、

「よこれた水と病気」

について、パソコンで調べました。そしたら、人間が使える淡水の量は、非常に少ないということと、現在ですでもすでに三十一カ国が水不足に悩んでいること、そして、十二億人は、汚れた水を飲み、三十億人は下水施設が未整備な地域にいたることが分かりました。この事を知った時は世界の人口が約六十億人いることとして、その六十億人の半分以上の人達が水の事で大変なことになっているということなので、なんだかすごく罪悪感を感じました。理由は、日本で何気なく、飲んだり、お風呂に入ったり、何かに使ったりと、いろんなことに使ったりして、きれいな水が使えない場所を侮辱しているような感じになったからです。その上その汚い水を飲んだ人が栄養不足や、感染症にかかったりして、死人が出ていることも知りました。私は、これはいけないなと思い、今回、水資源について調べてみました。水資源のことを調べたら、日本は降水量が世界平均の二倍あり、水の使用量も北アメリカと同等の三千六百九十五Lであることが分かりました。

次に、安定供給について調べました。分かった事は、地域の実情に応じた多様な施策を行う必要があることと、需要面では水の回収・反復利用の強化、節水意識の向上等があることと、下水処理水の再利用をしていることがよく分かりました。ここまで調べてきて思ったことは、日本

の国は自分達の住んでいる県や町をよく見ている、悪いところを見つけても、それを改善する方法を考えて実行しているのが、とてもすばらしいなと思いました。

最後に、環境保全について調べました。そこで分かったことは、自然保護が人間の住環境を保全することになるという見地から、環境破壊を防止し、自然保護をするということと、保全が実現するかは、開発との利益衡量によって決まるということ、たくさん課題を持っていることでした。

今回、地球の水や環境について調べてみた結果は、人間同士、嫌なこともあり、困惑することも人生の中にもいっぱいあるものであり特に地球の環境については、世界の問題にもなるため、本当にみんなで助け合いながら生きていかないと、人間の源にもなる水や環境は、助け合いながら見つめ直していく必要があります。

私は、今回の作文のテーマで水というものについて、また新しい発見をすることが出来ました。本当に私は何気ない気持ちで水をいろんな事にいっぱい使ってきたんだと改めて考えられました。水は人間にとって生きていくのに必要なもの、水は人間以外の生き物にとっても、命を広げていくために必要なもの。とれにだって、水が必要につながります。私達人間が生まれてきたもたって水につながり、生きていくのにも水につながるので、不思議な感じがあって、歴史と科学が一緒になっただけで面白いなと思いました。

これからの水の使い道や将来を予想すると、私は水という存在は、どんな人間もどんな生き物でも、汚染水のような水を飲む方より、きれいな水を飲める人の割合を今よりもっと多くしていけたらいいと思います。でも、そのために、私達がごく一般的に使っている水から少しずつ見直していった節水する活動をする人達をもっと増やしていきたいです。これからの未来も水資源も皆で意識しながら生活していきたいと思っています。